

令和3年12月市議会定例会 提案理由説明

令和3年12月越前市議会定例会の開会にあたりまして、冒頭のごあいさつをいたします。

このたびの市長選挙におきまして多くの市民の皆様の温かいご支援を賜り、新たに市政運営を担わせていただくこととなりました。身に余る光栄と存じ、心よりお礼申し上げます。

歴史ある越前市政を担うことについて、その責任の重さと使命を強く感じているところでございます。これまで越前市が培ってきた歴史と伝統を礎に、さらなる市政発展のため、市民の皆様と対話し、その声をお聴きしながら、誠心誠意、取り組んでまいりる決意であります。

11月8日の初登庁から、連日各部局における課題や施策等について協議を重ねてまいりました。各部局ともに難しい課題があり、それらを一つ一つ着実に解決していかなければなりません。

市役所の仕事の進め方についても、今一度見直していく必要があると感じております。形式的な会議やその準備に時間をかけすぎず、活発に意見を交わす、実質的な議論をするように意思統一を図ったところでもあります。そして、市役所内の雰囲気オープンで自由闊達な議論が交わされる明るい市役所にしたい、職員の新しいことに挑戦する気持ちを大切にしたいと思っています。前例・慣例に過度にとらわれず、前向きに仕事をする、そのことが結果として市の発展、市民の幸せにつながっていくと考えています。

令和6年春開業予定の北陸新幹線は新時代のスタートであります。越前市は古い歴史とともに多くの宝を持っています。歴史・文化、伝統工芸、食などの宝を磨き、その魅力を日本中に、世界に発信してまいります。そして、越前市をもっと輝かせ、住んでいる人が誇りを持ち、住み続けたい、帰ってきたい、行ってみたいと思えるまちにしたいと考えております。

越前市の新時代を夢と希望にあふれるものとする、その先頭に立つことを決意し、職員と一体となって、真剣に知恵を絞り、本気でやりとげる市政を目指してまいりますので、議員各位のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、市政運営の所信の一端を申し上げますとともに、12月補正予算案をはじめ、各種案件のご審議を賜りたく、当面する市政の諸課題についてご説明申し上げます。

【危機管理】

まず、防災危機管理について申し上げます。

災害対策はもとより、感染症対策などの危機管理体制を強化するため、今月15日付けで総務部に危機管理幹を配置いたしました。

様々な危機事象に関する情報の一元化や、危機対策の総合的な調整を図り、市民の安全安心を守るため、最初動の強化と迅速な情報発信を行ってまいります。

原子力災害への対応については、10月29日、30日に関西電力美浜発電所での災害を想定した県原子力総合防災訓練が実施されました。訓練では、外国人市民を対象とした県の広域避難訓練が初めて行われました。また、訓練に併せて、市独自で作成した4カ国語に多言語化した原子力防災のしおりを参加者に配布し、原子力災害に対する外国人市民の意識啓発を図りました。

【新型コロナウイルス感染症】

新型コロナウイルス感染症については、9月30日をもって、全ての都道府県で緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除されました。本県においても、10月14日をもって県感染拡大警報が解除され、3月29日以来、200日ぶりに発令がない状況となりました。本市の新規感染者数も、10月は2人、11月は25日現在で0人と落ち着いています。

しかし、海外では、再び拡大に転じた国もあります。新型コロナウイルス感染症が収束するまで、市内外の状況を注視し、県との連携を強化しながら、感染防止対策を徹底してまいります。早速、県の担当部局と綿密な連携について確認したところです。

新型コロナウイルスワクチン接種については、現時点で、対象市民の85%を超える方が2回接種を完了しております。最終接種率を9割と見込み、そのための所要額を12月補正予算案に計上し、接種を希望する市民全員が接種できる体制を確保してまいります。

また、3回目接種については、国の方針に基づき12月から、医療従事者、高齢者などから順次、3回目接種を実施できるよう準備を進めているところであり、3回目接種に係る所要額についても、12月補正予算案に計上いたしました。

今後も、県や武生医師会等と連携し、円滑なワクチン接種に取り組んでまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済対策については、消費の急激な落ち込みを改善するため、10月1日からスタートした市内の小規模店で利用できる電子クーポン「えちぜんし割」を発行し、11月18日現在で

24,636人が使用され、約4,900万円を超える消費効果が生まれています。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた市内中小事業者等を支援する「市コロナに負けない事業所等応援事業」については、11月18日現在で570社からの申請があり、5,563万5千円を交付したところです。

新型コロナウイルス感染拡大による需要減や、コメ余りによる2年連続の米価下落の影響により、農業者の収入減少が避けられない状況となっています。そこで、農業者の経営安定を図るとともに、未加入者に対しては、保険加入を促進するため、農業者が加入する収入保険の保険料について、県農業共済組合への一部補助に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

【北陸新幹線】

令和6年の春、北陸新幹線は敦賀まで開通し、越前たけふ駅が開業いたします。

建築工事が8割まで進捗した駅舎では足場が外され、コウノトリが大空に羽ばたくイメージが感じとれるようになっています。

開業に向けての早急な対応に向けて、今月15日付で、3つのプロジェクトチームを設けました。ただちに実行すべきことに着手すると同時に、それぞれの戦略を検討するためのたたき台を、提案するよう指示したところです。

1つ目は、「地域ブランディングプロジェクトチーム」です。

越前市の歴史・文化、伝統工芸、食などの宝を、どのように選び出し、どのように磨き上げ、どのように日本中、世界の人々に伝えていくのか。越前市を地域ブランドとして確立するための戦略が重要です。市役所、市の政策、市職員の発信もまた、越前市のブランド化にとって必要なことであると考えています。

2つ目は「誘客促進プロジェクトチーム」です。

越前たけふ駅の開業は、それだけで、お客さんが駅に降り立つことを約束するものではありません。降りてもらうために何をすべきか、その戦略を考えるのが、このチームです。ブランディングチームと連携しながら、顧客に直接働きかけて誘客促進を図らなければなりません。県、他の市町、特に丹南地域の市町、県観光連盟や市観光協会などと連携し、民間企業との協働も行いながら、誘客促進に取り組んでまいります。

3つ目は、「新駅周辺整備プロジェクトチーム」です。

新駅周辺の整備については、新幹線開業効果が市全体に波及していくように、JR武生駅周辺の中心市街地など、全体と関連付けながら考えていく必要があ

ります。部局横断の体制で、着実にかつ早期に推進してまいります。

3つのプロジェクトチームの成果を来年度の予算、組織につなげていきたいと考えております。

次に、新幹線開業に関連する事業についてご説明申し上げます。

新幹線開業2年前の節目にあわせ、機運醸成を図るため、来年1月下旬から3月下旬までの期間、市内で食事や伝統工芸の体験により抽選で賞品がもらえるキャンペーンを実施します。また、3月下旬に武生中央公園のまさかりどんの館で、駅弁などの食の販売や、地域の伝統工芸品の体験コーナー、北陸新幹線のPRなどを行う「北陸新幹線沿線グルメフェア」を併せて実施いたします。12月補正予算案に、これら事業についての所要額を計上いたしました。

また、新幹線駅からの二次交通について、利用者の需要に応じた効率的で効果的な方策を講じるための調査、誘客促進に繋げるための新幹線に対する期待やニーズに関する調査を実施することとし、12月補正予算案に所要額を計上いたしました。

並行在来線については、10月26日に開催された並行在来線対策協議会において、令和5年度末に開業する並行在来線に関する経営・運行の基本事項をまとめた「県並行在来線経営計画」が策定され、並行在来線準備会社に本計画を引き継ぎました。

新幹線駅に併設される道の駅「越前たけふ」については、10月27日に開催した産業振興施設指定管理者選定委員会の結果を踏まえ、11月10日から翌月10日までの期間で指定管理者の募集を開始いたしました。来年1月に開催を予定している次回の当該委員会において、指定管理者の候補者を選定してまいります。北陸新幹線、北陸自動車道、国道8号などの複合的な交通媒体による誘客が重要と考えております。

新幹線駅周辺の官民連携プロジェクト事業についてであります。

全地権者の皆様を対象に、事業に関する考え方の説明と土地利用意向の確認を行うため、11月16日から各戸訪問を開始いたしましたところ。年内には全ての地権者の皆様にお会いし、土地利用の意向を伺い、パートナー企業である戸田建設株式会社との連携をベースに、今後の個々の企業の進出意向の動向を十分に把握してまいります。その上で、北陸新幹線越前たけふ駅周辺まちづくり協議会等のご意見もいただきながら、地権者や地元の関係団体等に説明・協議などを行い、スケジュール感を持って着実に事業が進捗するよう努力してまいります。

11月9日、沿線10都府県で組織する北陸新幹線建設促進同盟会の総会が開催され、本県の杉本知事が会長に就任されました。本市にとっても、新幹線

の効果を本来の目的通りに発現させるうえで、1日も早い大阪までの全線開業が極めて重要であります。杉本知事のリーダーシップに期待し、私も全力で頑張る所存です。

【福井鉄道福武線】

次に、福井鉄道福武線についてであります。

利用促進を目的とした第10回ふくぶせんフェスタ in 北府駅が10月31日に開催され、ご家族連れの方が多く訪れました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数の回復が鈍化しており、経営が厳しい状況であることから、福武線の安定運行を目的として沿線3市による車両検査と修繕の費用に対する補助を行うこととし、12月補正予算案に所要額を計上いたしました。

越前武生駅については、新たな駅名に関する投票が10月16日から11月30日まで行われ、12月下旬に発表される予定です。

【市民福祉の推進】

次に、福祉について申し上げます。

人生百年時代、どの世代も、どのような環境・境遇にあっても、健康で幸せに生きることのできる越前市を目指したいと考えております。

そのための健康づくり、福祉の充実に関する諸施策を講じてまいり所存であります。

本市では、県や国と比べて糖尿病疾患患者が多く、高額な医療に繋がりやすい糖尿病を含めた生活習慣病の早期発見、早期治療はもとより発症予防が重要であると考えます。2025年の団塊の世代が後期高齢者となる時期を見据え、現役世代、前期高齢者世代、後期高齢者世代、それぞれの世代に応じた対策を講じ、健康な生活を継続して送ることができるようターゲットを絞った生活習慣病対策を行ってまいります。

11月18日には、現役世代への取組みとして、市内大手企業3社と健康に関する初の会合を開催しました。企業の課題や対策を共有、知見を相互交換し、好事例は武生商工会議所等を通じて他の事業所へも水平展開を図っていくことで、市内の事業所の健康経営を推進してまいります。

高齢者福祉については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が制限されたことに伴い、高齢者のフレイルの進行が懸念されます。フレイルチェックの実施や心身の変化への気づきを促し実態を把握するなかで、町内単位の歩いて通える身近な場所において住民主体で開催される「いきいきふれあいのつ

どい」等を通じてフレイル予防を講じてまいります。

また、身近な相談窓口として、本年度、日常生活圏域6箇所を設置された地域包括支援センター職員と連携し、引き続き介護予防に取り組んでまいります。

国民健康保険については、本年度は税率等の見直しの年であり、県の国保運営方針に基づき、被保険者の急激な負担増とならないよう、適正な税率改定に向けた準備を進めています。

引き続き収納率の向上や保健事業の推進による医療費の抑制に努め、基金も活用し、国保財政の安定化を図ってまいります。

【子育て・教育の振興】

次に、子育て・教育の振興について申し上げます。

武生西小学校区にある公立の上太田保育園、なかよし保育園、武生西幼稚園の3園では、医療的ケアを要する子どもの受入れ、多文化共生保育の推進、小学校との連携に取り組んできました。このたび、老朽化が進む3園を集約することにより、教育・保育を一体的に提供する認定こども園へ移行します。

整備にあたっては、市民ニーズへの対応及び市全体の就学前教育・保育の向上を地域とともに推進し、公私立園をけん引する拠点となる公立認定こども園を目指します。

令和5年4月の開園に向け、12月補正予算案に建設工事費に係る所要額を前倒しして計上し、令和4年度までの継続費といたします。

学校施設の整備については、9月に武生第二中学校グラウンドの大規模改修、10月に北日野小学校屋内運動場の大規模改修が完了いたしました。現在、武生第一中学校、武生第三中学校、南越中学校のトイレについて洋式化・乾式化する工事を行っており、12月中旬に完成予定です。

読書活動の推進については、「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくりを目標に、家庭・地域・学校・図書館などがそれぞれの場所で読書活動を推進するため、市子ども読書活動推進計画の改定案がまとめられたところです。改定案については、今議会でご意見をいただくとともに、パブリック・コメントを実施し、市民の皆様のご意見等を反映したうえで、本年度末の改定を行ってまいります。

また、現在中央図書館では、市が所蔵する貴重資料を公開し、『かわりゆく鉄道～明治から昭和にかけての武生の駅～』をテーマに市内を走る鉄道の変遷を紹介しています。

文化の振興については、地域に残る歴史文化の継承を図り、市民の文化芸術への関心を高める機会を提供することが必要です。今月28日まで、武生公会

堂記念館において、特別展「観音の霊地 帆山寺の至宝」を開催しております。寺外初公開となる秘仏千手観音菩薩立像をはじめとする貴重な作品により、帆山寺の歴史を紹介する展示を行っております。また、冬季には館蔵品展「地図・古写真でみる越前市の街並み 武生編」を来年1月28日から開催し、武生の変わりゆく風景、今なお残る歴史的町並みを絵図や写真により紹介いたします。

男女共同参画については、男女が互いに優れた個性を認め合い、その能力を最大限に発揮することのできる社会を目指して、取り組みを進めてまいります。第2次越前市男女共同参画プラン改定案については、今議会でご意見をいただくとともに、パブリック・コメントを実施し、市民の皆様のご意見等を反映したうえで、本年度末の改定を行ってまいります。

【経済・産業の振興】

次に、経済・産業について申し上げます。

市内の経済情勢については、武生商工会議所と越前市商工会が5月に実施した新型コロナウイルス感染拡大の影響調査によると、8割以上の事業所がマイナスの影響を受けたり、今後の影響を見込んでいるとしていました。

商工団体の部会との意見交換会や企業訪問では、飲食業やサービス業、繊維業などにおいては、引き続き厳しい状況にあるが、その他の製造業においては、新型コロナ流行の第6波の恐れや部品調達への影響、原材料費の高騰などの課題はあるものの、回復傾向にあります。

このような情勢を受け、ウイズコロナ、アフターコロナを見据え、商工団体をはじめ伴走支援機関と連携し、個人消費の拡大と事業所の前向きな取り組みを支援してまいります。

なお、国が11月19日に閣議決定した「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に関連する今後の本市の予算案計上については、その裏付けとなる国の補正予算の内容の情報収集に努め、速やかに適切な対応を図ってまいります。

中心市街地の活性化について申し上げます。

市中心市街地活性化プランについては、「ウォーカブルな（歩きたくなる）まちづくり」をテーマに、中心市街地の回遊人口をふやすためのまちづくりを推進することなどにより、住む人も、訪れる人も楽しいまちとなるよう取り組んでまいります。本年度末のプラン策定に向け、今議会に案をお示しし、ご意見をいただくとともに、12月からパブリック・コメントを実施し、市民の皆様のご意見等を反映してまいります。

まちなかでの新規開業店舗が増加し、本年度もまちなか出店・改装促進支援制度を利用した新規開業や、改装を検討する既存店舗が増えていることから、改装等の支援に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

2021たけふ菊人形については、10月8日から11月7日までの31日間開催いたしました。期間中の10月15日には、新型コロナウイルス感染症の県感染拡大警報が解除されたほか、比較的好天にも恵まれ、約16万人の来場者を迎えました。

武生中央公園と隣接する武生郵便局南側の市有地については、11月22日に総合評価落札方式により審査した結果、株式会社北信リースを買受事業者候補者に選定いたしました。提案内容をもとに、引き続き、候補者と協議を進め、武生中央公園のさらなる賑わい創出に繋げてまいります。

環境に関する取り組みについて申し上げます。

本市としても、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを着実に進める必要があると考えております。

市環境基本計画については、市の二酸化炭素排出削減目標の設定や、北陸新幹線駅周辺におけるRE100エリアの検討、2030年までに設置可能な公共施設の50%に太陽光発電設備を導入することなどを市環境審議会において議論いただきました。今議会に案をお示しし、ご意見をいただくとともに、12月からパブリック・コメントを実施し、市民の皆様のご意見等を反映したうえで、本年度末の改定を行ってまいります。

また、獣害への対応は、農業と農村を維持するうえで極めて重要であります。7月から「越前たけふ農業公社」から、「市獣害防止対策ネットワーク」に変更し、これまでの公社の職員を新たにネットワークの職員に採用いたしました。来年春に事務所を「越前たけふ農業公社」から、「春駒」に移転することから、所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

【まちづくり】

次に、インフラ関係について申し上げます。

服部川河川改修事業については、県が8月5日に工事請負契約を締結し、鞍谷川合流点の上流部左岸側において、護岸工事に着手したところです。また、西庄境町、東庄境町においても、10月に地元説明会を開催し、河川改修の同意を得たことから、今後、県において家屋調査、丈量測量に着手する予定であり、治水対策が着実に進捗しております。

市内道路施設については、建設から長期間が経過し老朽化が進み、3年ぶりの大雪による道路損傷箇所が多いことから、安全安心な道路交通を確保するた

め、追加的に行う道路維持改修工事に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

除雪機械賃貸借については、これまでも、除雪機械等の市内除雪委託業者への無償貸し出しを実施し、除雪力の向上を図ってまいりました。今回、冬期間限定のレンタル契約期間が満了した9台について、異常気象による自然災害や地震などに備えるため、除雪機械の冬季間以外における利活用を図ることを目的として、通年型のリース方式に契約形態を変更し、従来どおり除雪委託業者に貸し出すことといたしました。賃貸借料については、リース方式への移行後もほぼ同額となる見込みであり、債務負担行為に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

水道事業については、市水道施設更新計画に基づき、漏水防止による有収率の向上と耐震化の推進を図るため、漏水の多発している老朽管について、内部留保資金を活用して計画前倒しで更新を行うこととしました。建設改良費に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

下水道事業については、南越清掃組合のし尿・浄化槽汚泥と家久浄化センターの汚泥処理の共同化に向け、南越清掃組合敷地内に建設する汚泥前処理施設について9月30日に日本下水道事業団と建設工事に係る協定を締結し、家久浄化センター内に建設する機械濃縮施設と合わせ、来年2月の工事着手を目指してまいります。

なお、建設工事の進捗状況や建設予定地周辺の環境モニタリング調査の結果などについては、地元住民に対し、適宜丁寧に説明してまいります。

公共下水道施設及び農林業集落排水施設の維持管理業務包括委託については、本年度が委託契約期間の最終年度であるため、年内に次期5年間の包括委託業者を選定してまいります。

【自治体DX外】

次に、行政のデジタル化、いわゆる自治体DXの推進について申し上げます。

自治体DX推進計画の重点取組事項である、子育てや介護等の27手続きについて、9月から県内初となるマイナポータルでの運用を開始し、住民サービスの向上を図りました。また、災害時における行政機能の維持や多様な働き方への対応のため、総務省が実施する自治体テレワーク実証実験に参加し、全職員を対象としたテレワーク体験を始めてまいります。さらに、事務の効率化のため、12月からAI（人工知能）及びRPA（定型作業の自動化）を利用した業務の自動化を試行いたします。

高齢者など、デジタルの活用に困難を感じられる方への配慮、対応として、

丹南ケーブルテレビ株式会社とともに総務省の利用者向けデジタル活用支援推進事業の採択を受け、高齢者を対象としたスマホ教室を12月までに公民館11箇所まで延べ28回開催する予定であり、11月18日までに、延べ148人が受講いたしました。

今後とも「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現を目指し、取り組んでまいります。

次に、令和4年成人式については、「21世紀しか勝たん！～感謝・希望・笑顔 密です～」をテーマに、来年1月9日に市文化センター大ホールで開催いたします。新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、昨年度同様、参加者を出身小学校により2つのグループに分け、30分に短縮した式典を2回開催いたします。また、参加できない新成人のため式典をライブ配信したり、外国籍の方にも参加していただけるよう、案内状や当日のステージの様子を翻訳するなど、全ての新成人へお祝いと励ましの気持ちを届けられるよう準備を進めてまいります。

【行財政運営】

最後に、行財政運営について申し上げます。

市税については、新型コロナウイルス感染症及び法人市民税の税率改正の影響を見込んでおりましたが、一部大手企業の業績が堅調で法人市民税が上振れしたこと、固定資産税に係る新築家屋の建築数が引き続き好調であること、個人住民税についても新型コロナウイルス感染症による所得減の影響が少なかったことから、9億5千万円の増額を12月補正予算案に計上いたしました。

ふるさと納税については、11月21日現在の寄附額が2億4,800万円あまりと、昨年同期比の152%となっており本年度の寄附目標額である5億円を大きく上回る見込みであることから、目標額を7億円に引き上げ、それに伴う返礼品等の増額分に係る所要額を12月補正予算案に計上いたしました。

なお、本市の財政状況、課題について、これを客観的に診断、評価することが、今後の持続可能な市政運営、市民サービスにとって重要であります。年内の早い時期に、地方財政の専門家のご意見をお聞きする機会を設け、必要な対応策、改善案等の研究、検討に着手したいと考えております。

市政運営の基本方向については、今後、中長期的な視野をもって現行の基本構想をはじめ、各種計画の見直しを検討したいと考えております。3月議会には、その方針を明らかにいたします。

また公約に示した政策についても、各部局における議論をベースに、識者の意見、市民の皆様、議会のご意見を賜りながら、令和4年度予算の編成過程、

組織機構の見直しの中で、具体的な内容を定めていく考えです。12月補正予算案には、その調査、情報収集のための所要額を計上しているところです。

【結びに】

以上、当面する市政の諸課題及び予算案の概要について述べさせていただきました。

議会と市長の関係はよく車の両輪にたとえられます。それぞれ独立した市民の負託を受けた機関として、対等な立場で議論しながら、市民のために、より良い市政の実現を目指してまいりたいと考えています。

越前市議会議員の皆様とともに、この越前市において、モデルケースとなるような新しい自治体民主主義の姿を示し、越前市の発展と市民の幸せにつなげたいと考えております。何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、議案第64号から議案第72号までの提案理由については、関係部長よりご説明申し上げます。